

2026年

9月▶10月の星空



この図は

9/ 1 ▶ 夜22時
9/15 ▶ 夜21時
10/ 1 ▶ 夜20時
10/15 ▶ 夜19時

頃の星空です。

(惑星の位置は10月1日)

○1等星

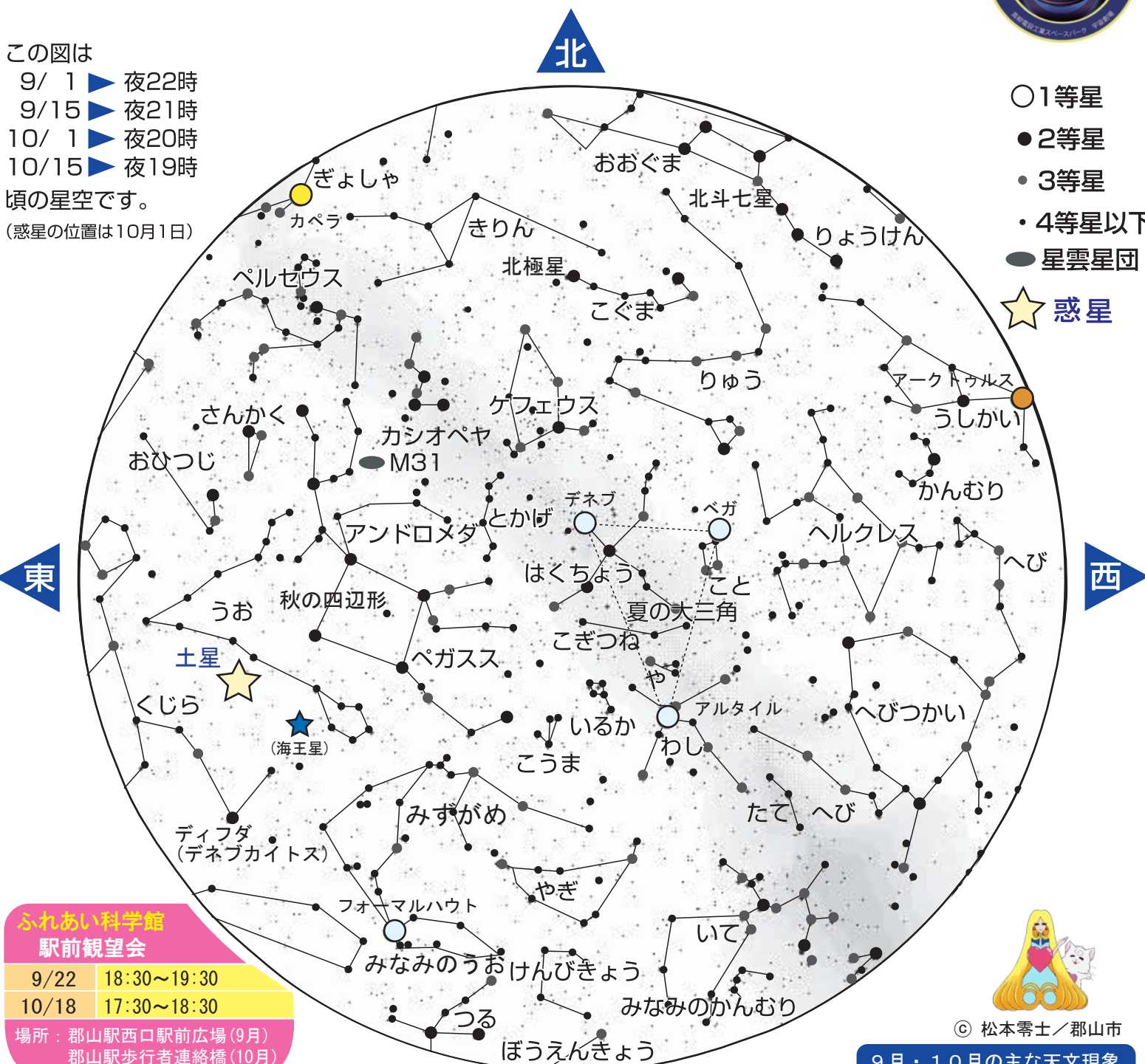
●2等星

●3等星

●4等星以下

●星雲星団

★惑星



ふれあい科学館

駅前観望会

9/22 18:30~19:30

10/18 17:30~18:30

場所：郡山駅西口駅前広場(9月)
郡山駅歩行者連絡橋(10月)



© 松本零士／郡山市

南

星図ダウンロードは
こちらから

※上弦、下弦は半月です。
※海王星は肉眼では見えません。

9月・10月の主な天文現象

9/23	秋分の日
9/25	中秋の名月
10/ 4	土星が衝
10/23	十三夜

郡山の日の出・日の入		
9/ 1	5:06	18:11
9/15	5:17	17:50
10/ 1	5:31	17:25
10/15	5:43	17:05

月の満ち欠け		
新月	9/11, 10/11	
上弦	9/19, 10/19	
満月	9/27, 10/26	
下弦	9/ 4, 10/ 3	

秋風を感じながらゆったりと星空を眺められる良い季節となりました。宵空では、「夏の三角形」の1等星をはじめ夏の星が少しずつ西へ傾き、東からは秋の星が昇ってきています。秋の目印は4つの星でつくる「秋の四辺形」です。ペガサス座の胴体にあたる星の並びで、これを目印にみなみのうお座の1等星「フォーマルハウト」や、くじら座のしっぽの星「ディフダ」など、ほかの星をたどることができます。そのような星たちの中に「土星」の姿が見えています。惑星は惑う星と書くように少しずつ場所を変えるため、昨年とは少し場所が変わっています。夜空で眺めると、星座を形づくる恒星とは違い、ほとんど瞬きがないことに気がつきます。恒星か惑星かを見分ける良い手がかりとなりますので、ぜひ瞬きの違いを観察してみてください。

9月25日は「中秋の名月」です。旧暦の8月15日の夜に見える月を中秋の名月といい、古くから人々は月を眺めてきました。中秋の名月をめぐる習慣は平安時代に中国から伝わったものですが、日本独自の風習として2回目のお月見も楽しんでいました。旧暦の9月13日の夜を「十三夜」と呼び、中秋の名月に対して「後(のち)の月」として月をめでていたのです。今年の十三夜は10月23日です。中秋の名月とあわせて「二夜(ふたよ)の月」をぜひ眺めてみてください。